



9

『あなたの夢は何ですか？ ～サイハンの願い～』 を活用した道徳の授業

報告者 京都府与謝郡与謝野町立江陽中学校 太田垣 靖先生

1. ポイント

本校では年間を通して、各学年で道徳、総合的な学習の時間を中心に、いのちの尊さや福祉、人権など「生き方を考える」とりくみを進めている。1年生は、校下にある福祉施設で福祉体験学習に取り組んでいる。今回の道徳の授業では、世界の子どもたちの現状に目を向ける中で自分の生活を振り返り、これからの生き方を積極的に考えていく心情をはぐくむことをねらいとした。第1次では道徳資料「あなたの夢は何ですか？ ～サイハンの願い～」を活用して授業を行った。第2次（総合的な学習の時間「国際理解教育」）では、第1次の授業を更に深めていくために、2003年に私がモンゴルスタディツアーに参加して学んだことをもとに作成した自作資料『学校に行きたい～モンゴルの子どもたちからのメッセージ～』を使って講演を行った。この学習を通して生徒たちは日々の生活を振り返りながら、人と人のつながりや学ぶことの意義・今後の生き方などについて深く考えることができたのではないかなと思う。



2. 実践

1 道徳の授業

- (1) 主題名 人間理解と生きる喜び
- (2) ねらい 厳しい状況の中でも希望をもって生きようとする人間のたくましさに共感する心情を養う
- (3) 資料① 『あなたの夢は何ですか？ ～サイハンの願い～』（日本標準）
- (4) 展開の概要

	学習活動（主な発問・予想される生徒の反応）	指導上の留意点
導入	1. 「モンゴル」という国はどこにあるか、紹介する。	○地理の授業でないので簡単に紹介する。 →日本の国土面積の約4倍 日本の総人口の約50分の1
	2. 「モンゴル」について知っていること、連想することをいくつか挙げる。	○興味・関心が少し深まればよい。 →相撲、力士、ゲル（移動式家屋）、遊牧民、羊、チンギス・ハン、フビライ・ハン、元、ゴビ砂漠・・・
	3. 首都ウランバートルの季節のことを紹介する。	○資料を読む前の知識として簡単に紹介する。 ※ウランバートルが、1400 ^年 と標高が高い。 ※酷寒、乾燥、気温の年較差大
展開	4. 資料「あなたの夢はなんですか？」を読み、マンホールチルドレンの存在について考える。 発問	○ゆっくり読む。 ○子どもだけで必死に生きている様子をなるべく具体的に読み取らせる。
	(1) なぜ子どもたちはマンホールに住んでいるのか。 (2) マンホールの中はどんな様子か。 (3) サイハンは、なぜ「みんながちゃんと暮らせる家をつくってください。」と言ったのだろうか。	◎サイハンのような子どもたちにとって、生きる上で一番の喜びは何だと思うか話し合わせる。
	(4) 「なんでもありすぎて。大事なものを失っているのではないか。」と思うことが身の回りにあったら出し合ってみよう。	○自分のこと以外でも、身の回りの中で具体的に考えさせたい。
終末	5. この資料を読んで、いちばん心に残ったことをまとめる。	○困難にも絶望せず、困難な中にあっても希望をもって生きようとする人間のたくましさ、やさしさに気づかせる。

2 総合的な学習の時間 「国際理解教育」として、自作資料『学校へ行きたい ～モンゴルの子もたちからのメッセージ～』（自作資料）を使って1年生に学習講演会を行う

○ 学習のポイント

(1) 自分の生活をもう一度見直してみよう

幸せとは、豊かさとは、学ぶとは、家族とは、友達とは、「いのち」や「生きること」とは？

(2) 私たちができることは

- ・世界で起きていることを理解すること
「知らなければ何も始まらないこと」
- ・彼らからどのようなメッセージを受け取っていくのか



3、生徒の感想

■ 私が一番心に残ったことは施設の子もたちの「夢」のことです。私は毎日あたりまえのように学校に来ているし学校が終わってから帰る家もあるので、子どもたちの「学校へ行きたい」「家に帰りたい」という願いを聞いてすごく驚きました。私が毎日あたりまえのように過ごしている生活がモンゴルの子もたちの夢だと思うと、私は恵まれているんだなと感じました。しかし、「マンホールチルドレン」や施設の子もたちは夢をもって生きていました。苦しい生活をしているのに、夢をあきらめず叶えようと強く思っていることに心を打たれました。しかし、中には犯罪に手をそめてしまう子どもたちもいるということを知って「子どもたちがそんなにきびしい生活をしているのか」と改めて悲しくなりました。今の私がそのような子どもたちのためにできることは少ないと思いますが、今日のように世界の子もたちのことを少しでも知って何ができるかを考えることや、自分自身が夢をもって叶えようと強く思う気持ちを忘れないことが大切だと思いました。今までは、コンビニなどに募金箱が置いてあってもあまり意識していなかったけど、これからは積極的に募金活動に取り組んで行きたいと思っています。

■ 私は国際理解講演会を聞いて、最初は「日本人でよかったな」と思いました。でも、最後まで話を聞いて「良かった」と思った私は恥ずかしいと思いました。話を聞いてふたつのことを思いました。親から暴力を受けたり学校へ行けなかったり路上生活やマンホールの中で生活したり、辛い思いをしてきたと思います。でも、ひとりひとり夢を持ってしっかり生きていこうとしていました。びっくりしました。でも、私は家に帰ると家族がいて、学校にも行けるし家もあるので、毎日何となく生活しています。恵まれているし、何一つ不自由はないけど、モンゴルの子もたちのように強く何かを感じながら生きていません。そのことを恥ずかしく思いました。先生の話を知ったり写真などを見て、私は福祉など人を助ける仕事につきたいと思いました。もうひとつは、途中から学校に来なくなった友達や家族のために物作りやボランティア活動（『100 トゥグリクより100人の友達をもとう』プロジェクト）をして、ゲルを買ってあげてその友達が学校に来れるようになったことです。協力や助け合いの大切さを教えられました。

4、まとめ

今回の学習は生徒たちにとって終わりではなく始まりである。生徒たちは、2時間の授業を通して多くのことを学ぶことができたと思う。多くの生徒が素直に書いていたように「幸せであたりまえだと思っていた」日常が決してあたりまえではないこと、人と人とのつながりの中で生きていけること、そのものの価値について深く考えている。きびしい生活を余儀なくされながら強く生きようとしている彼らの生き方に深い共感を示し、同時代を共に生きる人間として自分たちの『今』を精一杯生きること、そのことがかれらの生き方を励ましていくことにも気づくことができたと思う。この気づきが、生徒たちのこれからの学びや生き方をさらに後押ししてくれることを強く願っている。